

□10月1日 主日礼拝説教短縮版(隅野徹師)  
「人を分け隔てしない」(ヤコブの手紙2:1~13)

イエスはマタイ7章1節からのところで、「あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られる」と教えておられます。神の憐れみを受けていながら隣人に対して、特に弱い立場にある人に対しての憐れみがなければ、神から私たちへのさばきは、「あわれみのないさばき」となって自分に返ってくるのです。厳しいですが、これが神の真理です。私たちはいずれ神の御前で裁かれるものである、そのことを忘れずに歩みたいと願います。

しかし裁きはただ恐ろしいものではなく、私達の生き方により緊張感をもたらしてくれるものだと私は信じています。そのことは、今日の箇所では13節の最後の「憐れみは、裁きに打ち勝つのです。」という言葉に表されています。

罪人の私たちにとって、確かに神の審判を受けることは恐ろしいものです。しかしこの言葉は、憐れみの心をもって日々生きていくことが、神の裁きを乗り越えるものであると教えてくれます。マタイによる福音書25章40節の「はっきり言うておく、わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」という言葉が表しているように、私達のすべての行いをみてお裁きになる全能の神は、私たちが隣人、とくに弱い立場の人たちに対し、憐れみの心を持って行った一つ一つの行動を見て下さるのです。

私たちは神がいつでも見ておられること、そして独り子をお与えになるほどにすべての人間を愛しておられることをいつも心において、その時その時でなすべきことをしてまいりましょう。(終)